令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立西浦和小学校 ）　　学校番号　２３　　【様式】

目指す学校像	よく学び　笑顔いっぱい　一人ひとりが輝く教育の推進　～ 一人ひとりの多様な幸せを大切にする学校 ～

重点目標	
	１　基礎的･基本的な学力を児童に定着させ、授業における主体的･対話的で深い学びを実現する。 ２　地域との連携・協働により学校課題を解決するコミュニティ・スクールを実現する。 ３　計画的な予算運用と定期的・臨時的整備により安全な教育環境を実現する。 ４　人事評価を活用した人材育成と、職員が心身を健康な状態に保つことができる職場環境を構築する。

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査の結果、国語では「話すこと・聞くこと」が高めで「書くこと」が低い。また、算数では「データの活用」が高めなのに対し「数と計算」「測定」が低い。 ○課題に対して興味をもって取り組み、自分の考えを進んで伝えようとする児童が多い反面、論理的に話をまとめたり、話し合いから考えを深めたりすることを苦手とする児童も多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」や算数の「数と計算」など、学習を展開する上での基礎的・基本的な事項を確実に習得させる必要がある。 ○基礎的・基本的な事項を身に付けさせた上で、考える場面や、考えを伝え、他人の考えから自らの学びを更に深める主体的、対話的な学習の展開を工夫する必要がある。	・学びの自律化の基礎となる基礎的・基本的事項の定着	①学習への取組状況を基に学習相談を実施し、児童が具体的な目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点の結果を情報端末上のシートに入力することで、自らの学習状況を把握できるようにする。 ③学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、より効果的な手立てを設定し、児童の基礎・基本の定着を図る。	①全児童に対して、各学期末に学習相談を行い、励ましたり、改善点を助言したりすることができたか。 ②自己採点の結果をもとに、児童が自らの学習状況をつかみ、目標を立て、行動できるようになったか。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを設定し、国語の「書くこと」算数の「数と計算」の問題について、正答率を８０％以上とすることができたか。				
		・主体的、対話的で深い学びを実現する授業づくり	①学校課題研修の教科である算数と、特別の教科　道徳を核とし、主体的、対話的で深い学びを研究し、実践する。 ②教員と児童が共に学び、児童相互に自らの考えを探求し合うアクティブ・ラーニング型授業を展開する。	①学校自己評価に係る教員アンケートの学習に関する項目で、肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートの学習に関連する項目で、肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。				
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均を上回った。 ○昨年度、施設・設備の瑕疵による児童のけがが１件発生した。 ○今年度、児童のけがの発生が多い傾向が続いており、コロナ禍における運動機会と経験不足による危機回避能力の低下が原因と考えられる。 〈課題〉 ○コロナ禍によるストレスや生活の変化が児童に与える影響が大きく、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制づくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会で、児童の状況を細やかに把握、分析し、関係機関との連携も視野に適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおける教育支援・相談に関連する項目で、肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおける教育支援・教育相談に関連する項目で、肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。				
		・施設設備の安全の確保と健康の維持に主体的に取り組む児童の育成	①安全点検、日常巡回をもとに施設・設備の瑕疵を発見後１２時間以内に復旧もしくは復旧計画を示す。 ②感染症対策等の臨時的予算が発生した場合は、その都度、教育活動計画をもとに効果的な購入計画を作成、発注し、納品後、一両日中に運用を開始する。	①学校自己評価に係る教員・保護者アンケートにおける学校の施設・設備の安全に関する項目で、肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートの健康と安全を意識した行動に係る項目で、肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。				
3	〈現状〉 ○今年度、本校は学校運営協議会を立ち上げ、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくという目標を共有した。 ○今年度、学校の多様な課題のうちから家庭や地域に関係する課題は、学校運営協議会で解決策を熟議することとした。 〈課題〉 ○共有した目指す児童像を、地域に住み、地域に集う全ての人々が「教育の当事者」として共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・児童の課題を学校、家庭、地域が三位一体となって共有し、解決する体制づくり	①学校運営協議会を開催し、地域や家庭が関わる教育課題について、熟議を通して改善策を提言する。 ②本校ホームページ内に、新たに学校運営協議会及びＳＳＮの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ③学校行事等について、学校に関わる人々が参観できる機会を確保し、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①学校運営協議会を年３回以上開催し、熟議を通して、学校改善案を年４つ以上提言できたか。 ②学校自己評価に係る保護者・地域アンケートにおける学校、家庭、地域による協働に係る項目で、肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。 ③学校自己評価に係る保護者・地域アンケートの開かれた学校づくりに係る項目で、肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。				
4	〈現状〉 ○ＧＩＧＡスクール構想の具現化に伴うＩＣＴ機器の活用について、情報教育部が中心となり、授業提案や研修を重ねてきた。 ○今年度より高学年での教科担任制を開始しており、次年度に向けて情報を収集している。 〈課題〉 ○次々と新しい機器が導入される状況においても児童の興味関心を高め、学ばせるのは個々の教員であり、その指導力を高め続ける必要がある。 ○高学年における教科担任制を持続可能で安定した体制にするために、教育課程の編成や教員の専門性の育成、児童情報やよい授業のイメージを共有する体制づくりが課題である。	・教職員の資質の向上による一人ひとりの多様な幸せを大切にする学校の構築	①研修主任、研修推進委員会を通して、研修計画を確認し、指導者を招聘した研究授業、研究協議会を通して、授業の基本となる教員の指導力を高める。 ②個別最適な学びを充実させる有効な手段として、教員が授業の中でＩＣＴ機器を活用できる能力を高める。 ③人事評価を通して各教員の専門性や特性が生かされているか検証し、次年度の指導体制づくりに活かす。 ④高学年の教科担任制実施による勤務時間外の在校時間の変化を検証し、３学期までに改善案を策定する。	①年２回実施される「よい授業アンケート」の結果について、１回目の平均値より２回目の平均値の方が向上しているか。 ②全ての教員が自立、個別最適な学びの実現を目指し、日常的にＩＣＴを活用できる状況になったか。 ③人事評価面談を通して、全ての教員が自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として８０％以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ④３学期までに、令和５年度の教科担任制の具体的な改善案を策定することができたか。				